

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮前小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方」 算数「数と計算」「変化と関係」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導が必要。自身の課題を理解するための振り返りが不十分。	⇒ 漢字は辞書を活用しながら、普段から文章の中で使う【毎時間】。主語述語の関係は、ドリルパーク等で定期的に練習するようにする【月に1～2回】。既習事項を振り返りながら、これまでの学習内容と関連付ける意識を高める【毎時間】。自身の課題を振り返り、課題を達成するための学習方法について考える機会をもたせる【単元ごと】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「書くこと」「読むこと」(記述) 算数「図形」「数と計算」 <指導上の課題> 文章のつながりを意識してまとめさせたり、式との関わりを説明させたりする機会が不十分。	⇒ 業前の読書活動や図書室の活用を十分に確保する【週に1回】。「個別最適な学びの観点」並びに、「協働的な学び」の観点を取り入れた授業を実践し、自分の考えを整理して説明する機会を増やす【単元ごと】。ICTを効果的に活用し、視覚的に図形等の構造を理解させ、「わかった、できた、楽しい」を引き出す【随時】。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、課題であった言葉の特徴や使い方に関する問題において、やや向上が見られたが、無回答率が高く、習熟度に個人差がある。また、情報の扱い方に関する問題では、情報を図に表した場合の関連付けを適切に整理することにも課題が見られた。算数では、データの活用に関する問題で、全国平均に比べて大きく上回る結果であった。一方で、図形の判別やはかりの目盛りを読み取る場面で正答率が低く、基礎的な知識・技能の定着を図る必要がある。理科では、磁石につくか、電気を通すかという身の回りの金属の性質について、知識の定着が十分ではなかった。	
思考・判断・表現	国語の「書くこと」では、内容の概要をとらえ、文章と図表を結びつける問題において、条件を満たした記述ができ、正答率も全国平均を上回った。他の記述式の問題でも、無回答率が低く粘り強く取り組むことができた。算数では、全国平均と比較して正答率の幅が大きい問題が多かった。「図形」の面積を求める問題では、基本図形の面積の求め方が十分に定着していないようだった。複合図形や図形の向きにも対応できるよう様々な問題に触れる必要があると考える。ほとんどの問題で、無回答率が低かったのはよい傾向。理科では、「地球」を柱とする領域で、特に正答率が高かった。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	漢字については、高学年児童は自分で学習の計画を立てて取り組んでいる。国語以外でも文章を書く際には既習漢字を積極的に使うよう指導している。ドリルパーク等を活用し、児童自身が課題と考える学習内容の復習に取り組むようにしているが、自主学習としては取組に個人差が大きい。	継続して実施していく。漢字は、新出漢字の練習だけでなく、熟語や同音異義語、反意語なども意識的に練習するよう指導し、文章を書く機会に、積極的に使うようにさせていく。
思考・判断・表現	B	図書室の活用や、業前の読書タイムを推進しているが、家庭も含め、1日の読書量が十分確保されているとは言えない。学校全体で「個別最適な学びの観点」並びに、「協働的な学び」の観点を取り入れた授業の実践を積極的に推進している。対話的な学びの時間は確保されているが、自分の考えを自信をもって整理して説明できる力は、十分ついているとは言えない。	継続して実施していく。全国学力・学習状況調査でも、「図形」に関する問題で課題があったことから、ICT機器を使っての空間認識を高めることと併せて、実際に作図してみたり、複合図形の面積を求めたりする学習に取り組む。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)